



上手な救急室の使い方



救急室というと、24時間あいている病院というイメージでしょうか。病気やケガはいつ起きるかわからないので、救急は24時間対応というのが基本となります。いつでも受診できるので、良くない使い方として「コンビニ受診」という言われ方もしたりしますが、コンビニは便利で良いものなので、僕はこの便利さは守り抜く必要があると思っています。



救急科部長 高良剛口ベルト

<なぜ「コンビニ受診」が悪いの？>

それでは、なぜ「コンビニ受診」が悪いのかというと、昼も夜も同じレベルの救急医療を提供するためには普通の3倍以上の人が必要になります。いろんな医療機器を24時間使えるようにするためにも経費がかさみます。なので、時間外夜間は病院職員も最小限の人数しかいません。人間は本来夜寝るものなので、夜間は体力も集中力も落ちますから、エラーが起きる危険性が高くなります。その中で命が危ない患者さんの対応もしていますが、さらに受診患者数も多くなると集中できず、大変危険な状況となります。そういう理由で、できるだけ夜間の救急受診は控えて欲しいと思っています。それに、時間外受診すると医療費も時間外加算などがついて昼間のクリニック受診よりもかなり割高になります。ついでに言いますと、朝の7時から9時位の間と夕方4時から5時位の間は救急で働くスタッフの業務引き継ぎ時間のため、待ち時間が長くなることがあります。できるだけこの時間帯の受診は避けていただくとスムーズな診療につながります。

<こんな時は、遠慮なく救急受診してください>

とはいえ、時間に関係なく救急医療が必要となる方はいます。今日は皆様にこういうときは遠慮なく救急受診をしたほうが良いという状態をいくつかご紹介したいと思います。

まず、救急医療で最優先に考えることは命を守ることです。その次に後遺症など障害を少なくすること、そしてケガなどは見た目もキレイに治すことです。最後に、とても大事なことです。後回しになりがちなのは、安心して安らかな気持ちで日常生活に帰っていただくこととなります。そういうふうに考えると、僕らはまず命に関わる状態かどうかを判断します。



pixta.jp - 10559463

意識がおかしい、起こしても起きない、受け答えがおかしいなどあれば脳の病気かもしれません。そういうときは迷わず119に電話をして救急車で救急受診をしてください。結果的に寝ていただけだったとしても、反応がおかしかったら手遅れになるよりはオーバーに対応した方が絶対に良いです。**息が苦しい**というのも問題です。息が吸えない、息が吐けない、息切れがひどいなどの症状があるときも命に関わる危険性があります。特にお子さんやお年寄りが急に苦しがりたりするときは

呼吸がうまくできていないかもしれません。息をするとき「ヒューヒュー」「ゼーゼー」音がする、ハーハーと息が荒いなどあれば急いで119です。他にも**胸が痛い**、締め付けられる感じがする、胸が押しつぶされるように苦しい、背中が裂けていくように痛い、動悸がひどくて気が遠くなるなどの症状も危ない病気かもしれません。また、**顔色が悪い**、青ざめている、どす黒い、**手足が冷たい**、**冷や汗をかいている**、なども危ないサインです。**特に「急に」出てきた症状は緊急治療が必要な場合が多いのでその時も我慢せず救急受診を考えてください。**



<救急を受診せずに、観察することのメリット>

そういう苦しい症状がない場合、例えば夜中に40度の熱が出たとしても、急いで救急受診が必要なことは少ないです。逆に熱が出て間もなく、症状もなければ、病気を診断することも難しいです。タイミングが早すぎると検査にも反応が出ないため、二度三度と受診が必要になってしまう場合がありますので、一日くらい様子を見てからの受診でも良いと思います。

ただし、ガタガタ、ブルブル、歯がガチガチするほど震えが来て熱が上がる場合は細菌が体を駆け巡っているときの症状かもしれません。それは緊急の状態ですので、救急受診をして下さい。

救急医療体制は医療者と地域住民が協力して作り上げていくものです。ゆいまーるの精神で安心安全な北部地域を作り上げていきましょう。

